

⑦【済生会新潟病院】

住 所	〒950-1104 新潟県新潟市西区寺地280-7		病床数：406床
診療科目	血液内科、腎・膠原病内科、代謝・内分泌内科、精神科、脳神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、小児科、外科、整形外科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、形成外科、脳神経外科、病理診断科		
研修責任者名	坪野 俊広 (副院長)	連絡先：rinken@ngt.saiseikai.or.jp 025-233-6161 (代表)	連絡先担当者名：上村 真喜子 (教育研修センター)
新臨床研修医指導実績	・新潟大学臨床研修病院群研修プログラム採用 平成23年度：1人、24年度：1人、25年度：1人、26年度：0人、27年度：0人、28年度：2人、29年度：2人、30年度：2人、令和元年度：2人、2年度：1人、3年度：1人、4年度：2人、5年度：2人 ・その他プログラム採用 平成23年度：14人、24年度：13人、25年度：14人、26年度：14人、27年度：14人、28年度：14人、29年度：11人、30年度：12人、令和元年度：17人、2年度：18人、3年度：18人、4年度：19人、5年度：20人		
研修受け入れ可能診療科※		学会認定専門医数	学会認定指導医数
必修：内科（消化器、腎膠原病、呼吸器、代謝内分泌、循環器、血液）、外科、小児科、産婦人科 選択研修：整形外科、心臓血管外科、麻酔科、眼科、泌尿器科、耳鼻科、皮膚科、脳神経内科、病理診断科、救急（内科）		内科（消化器）7人、内科（腎・膠原病）3人、内科（呼吸器）4人、内科（代謝内分泌）1人、内科（循環器）4人、内科（脳神経）1人、内科（血液）2人、外科10人、麻酔科3人、小児科6人、産婦人科5人、整形外科4人、眼科2人、泌尿器科2人、皮膚科1人、病理診断科1人	内科（消化器）4人、内科（腎・膠原病）4人、内科（呼吸器）4人、内科（代謝内分泌）1人、内科（循環器）3人、内科（脳神経）1人、外科8人、麻酔科3人、産婦人科3人、整形外科4人、眼科1人、泌尿器科2人、皮膚科1人、病理診断科1人
施設の概説・特徴			
各診療科を有する総合病院として、幅広い疾患分野の医療や二次救急に対応でき、各専門分野の学会認定施設としての指定も受けている。また、臨床部門と病理部門との検討も活発に行っている。さらに、地域医療支援病院の認可を受け、地域における基幹病院としての役割を担うとともに、病診連携に基づくオープンシステムを稼働し、本システムによる入院ベッドが60床前後稼働している。			
研修受け入れ可能診療科の説明			
内科：地域医療支援病院として地域の内科疾患全般の診療を行っており、日常頻度の高い疾患から専門的医療を必要とする疾患まで幅広い疾患を経験することができます。さらに、各種検討会やカンファレンスを行い、複数の医師やコメディカルスタッフとの連携を通して、チーム医療や患者との接遇を学ぶことができます。また、多数の学会専門医修練施設としての認定を受けています。 外科◆：消化器がんや乳腺疾患を中心にイレウスや腹膜炎、外傷などの救急疾患を含め、消化器一般外科の幅広い疾患を多数例診療しています。上部・下部消化管、肝胆膵の分野別に専門医がおり、3チーム体制で年間800例以上の手術を、腹腔鏡下手術など低侵襲手術や機能温存手術を積極的にこなしています。 麻酔科：年間約2800例の手術患者の麻酔管理を行い、十分な症例数で、末梢静脈点滴確保から各種ライン確保、挿管、呼吸・輸液・循環管理等医療の基本技術が修得できます。 小児科：当院小児科は、新潟市において一次・二次医療を担う施設であり、数多くのcommon diseaseを発症初期から経験できます。産科は県内でトップレベルの分娩数があり、小児科医の判断、治療を要するケースに多く関わります。教科書の記載からは実感できない病態、子どもと関わる方々とのコミュニケーション、知識の習得と実践、について積極的に学んでいただきたいと思います。 産婦人科：常勤医6名（専門医5名）で、分娩・内視鏡手術・体外受精を3本の柱とし、いずれも県下1～2の症例数です。キラキラの受精卵、可愛い胎児のエコー画像など「美しい風景に出会う」研修であり、帝王切開、腹腔鏡手術を研修医も執刀する「手を動かす」研修です。 整形外科：関節外科を中心に診療を行っています。肩・肘・股・膝・足関節に対する人工関節や骨切り術、関節鏡視下手術を多数施行しています。それに加え、四肢の外傷に対する治療も積極的に行っています。積極的に手術に参加して研修していただきます。 眼科：当科は網膜剥離、増殖糖尿病網膜症などの難治性網膜硝子体疾患の手術件数が非常に多い点が特徴です。また白内障手術も多数行われており、こちらも難症例の割合が高いという特徴があります。加齢黄斑変性などに対する抗VEGF治療も積極的に多数行っています。当科の眼科診療のレベルは高く、近隣だけでなく遠方の医療機関からの紹介も少なくありません。 泌尿器科：尿路結石症と前立腺肥大症の手術療法を中心に診療を行っています。一般泌尿器科としてはやや特殊かもしれませんが、尿路結石症と前立腺肥大症は症例数も多いので、将来他科へ行っての良い経験になります。 病理診断科：当科の年間の組織診、細胞診、術中迅速、病理解剖はそれぞれ約5,300、8,000、130、10件です。臨床と乳腺検討会、消化器検討会、CPC（臨床病理検討会）を定期的に行い、研修医に必須のCPCレポート作成にも積極的に関わっています。			
研修の概説と特徴			
プライマリ・ケアを習得するにあたり、初期には頻度の高い一般的な疾患から研修し、その後、救急、重症などステップアップしていくようにしている。 また、1年次には内科、産婦人科、小児科、救急（整形外科、内科）を研修することにより、プライマリ・ケアの基本を学び、2年次には救急（麻酔科、内科）、地域医療、精神科を4週ずつと外科を6週、28週の自由選択を設け、各自の研修を充実したものとする。さらに当院で実施しているオープンシステムの実験を経験することにより、地域医療における病院の役割を学ぶことができる。			
研修医の当直			
二次救急病院として、病院全体で内科輪番（月5回程度）、整形外科輪番（月5回程度）、小児科輪番（月7回程度）、産婦人科輪番（連日）を担当している。その内研修医は1人当り月2～3回の当直を行っている。救急外来患者数は年間6,500人程度で、その内救急車で来院した患者は4,500人程度となっている。当直は、診療科の担当指導医1～2人と研修医1～2人体制で実施する。			
処 遇			
●給与：1年次（月額基本給）380,000円（諸手当含む）600,000円 2年次（月額基本給）410,000円（諸手当含む）650,000円 ※通勤手当、超過勤務手当、日当直手当、学会出張費、研究費等あり ●食事：売店・ブッカカフェ（職員割引あり）、弁当の注文、近隣に大手スーパー有 ●宿舎：個人準備 住居手当あり（上限27,000円） ●居室：研修医専用の居室有 ●図書・文献：各種資料検索のための図書室有 Pub Med / Cochrane Library / 医中誌 / Medical Online 医学図書：国内 5,000冊 / 国外 260冊 医学雑誌：国内 186種類 / 国外 75種類 ●インターネット環境：各自の机からインターネット接続可能			

※「必修」で掲載されている診療科は、「選択研修」でも研修可能です。

◆令和6年度当院での外科（必修）担当科の1つであり、研修の際は、基本的な外科手技と全身麻酔手術時の周術期全身管理能力を修得する。